

全港湾九州地方菟田支部青年部

池田 将平

2026年5月15日から17日までの3日間、「2026年本土復帰54年第49回5・15沖縄平和行進」に参加した。今回、初めて沖縄平和行進へ参加し、三単産団結式、平和行進、戦跡視察、学習会などを通して、沖縄戦の歴史や現在も続く基地問題、そして平和の大切さについて深く学ぶ機会となった。

これまで自分にとって沖縄は、綺麗な海や観光地というイメージが強かった。しかし、実際に沖縄へ行き、自分の目で街並みや基地周辺の様子を見て、現地の方々の話を聞くことで、沖縄が今もなお多くの問題を抱えていることを知った。また、平和について改めて考える貴重な経験となり、自分自身の考え方にも大きな変化があった3日間となった。

1日目 三単産団結式

初日は沖縄に到着後、三単産団結式へ参加した。全国各地から多くの参加者が集まり、会場には平和への思いや連帯の気持ちがあふれていた。普段なかなか関わることのない他地区・他産別の方々とも交流することができ、平和を守るために多くの仲間が活動していることを実感した。

団結式では、沖縄が抱える基地問題や沖縄戦の歴史について話があった。ニュースなどで沖縄の基地問題について耳にすることはあったが、実際に現地で説明を受けることで、自分が思っていた以上に深刻な問題であることを感じた。

特に印象に残ったのは、日本国内の米軍専用施設の大部分が沖縄に集中しているという現実だった。沖縄県民は日常生活の中で騒音問題や事故の危険性など、多くの負担を抱えながら生活していることを知った。また、基地の存在が沖縄県民の生活に大きく関わっていることを改めて実感した。

実際に沖縄の街を見て感じたこととして、これまで自分が持っていた「観光地としての沖縄」とは違う現実があるということだった。テレビやSNSでは綺麗な海や観光地が多く紹介されているが、街中には基地関連施設や高いフェンスがあり、軍用車両を見かける場面もあった。沖縄では基地問題が生活のすぐそばに存在していることを強く感じました。

団結式では、戦争を経験した世代が少なくなっていく中で、自分たち若い世代が歴史を学び、

平和への思いを次の世代へ語り継いでいくことの大切さについても話があった。今の平和な生活は当たり前ではなく、多くの犠牲の上に成り立っているということを改めて感じた。

初日は緊張もあったが、全国から集まった仲間たちと交流する中で、平和行進への思いや組合活動について様々な話を聞くことができ、とても良い刺激となった。

2日目 沖縄平和行進

2日目は沖縄平和行進へ参加した。朝から多くの参加者が集まり、平和を願いながら行進を行った。実際に自分の足で歩き、沖縄の街並みや基地周辺の様子を見ることで、映像やニュースでは感じることはできない現地の空気を体感することができた。

行進中には、沿道から手を振ってくださる方や応援の声をかけてくださる方もおり、地域の方々が平和行進を大切にしていることを感じた。一方で、基地周辺では高いフェンスが続き、改めて基地の存在の大きさを実感した。

特に印象に残ったのは、「沖縄だけに負担を押し付けてはいけない」という言葉だった。これまで自分は基地問題について深く考える機会が少なかったが、実際に沖縄へ来て現状を見ることで、この問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体で考えていかなければならない問題だと感じた。

平和行進には高齢の方から若い世代まで幅広い年代の方々が参加しており、平和への思いが世代を超えて受け継がれていることを感じた。特に、実際に戦争を経験した世代の方々の話には重みがあり、平和な時代を守り続けていかなければならないという思いが強くなった。

沖縄の暑さの中での行進は体力的にも大変だったが、それ以上に学ぶことが多く、自分にとって非常に意味のある時間となった。普段何気なく過ごしている平和な日常は、多くの犠牲や努力の上に成り立っていることを改めて考えさせられた。

夜には青年部交流会としてバーベキューが開催され、全国各地から参加した青年部の仲間たちと交流を深めた。仕事の内容や地域は違っていても、組合活動や平和への思いには共通する部分が多くあり、有意義な時間となった。

交流会では、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができた。普段はなかなか他地区の青年部と交流する機会が少ないため、今回の交流会はとても貴重な経験となった。

また、交流の中では、若い世代が平和について学び、それを周囲へ伝えていくことの大切さについて話す場面もあった。戦争を経験した世代が少なくなっていく中で、自分たち若い世代が平和への思いを受け継いでいかなければならないと改めて感じた。

今回の沖縄平和行進では、平和について学ぶだけではなく、人と人とのつながりの大切さも感じる事ができた。

3日目 戦跡視察・三単学習会

3日目は戦跡視察として、ひめゆり平和祈念資料館や沖縄県平和祈念公園を訪れた。

ひめゆり平和祈念資料館では、沖縄戦当時、看護要員として動員された学生たちについて学んだ。まだ若い学生たちが戦場へ動員され、多くの命が失われたことに大きな衝撃を受けた。自分とそれほど年齢の変わらない若者たちが、戦争によって未来を奪われたことを思うと、とても胸が苦しくなった。

資料館には当時の写真や遺品、証言などが展示されており、戦争の悲惨さが強く伝わってきた。暗い壕の中で負傷兵の看護を行っていたことや、十分な食料や医療もない状況の中で極限状態に置かれていたことを知り、言葉を失った。

また、戦争によって亡くなったのは兵士だけではなく、多くの一般住民や学生、子どもたちであったことを改めて認識した。戦争は人々の命だけではなく、日常や未来までも奪ってしまうものであると強く感じた。

平和記念公園では、平和の礎を見学した。そこには沖縄戦で犠牲となった多くの方々の名前が刻まれており、その数の多さに圧倒された。国籍や軍民を問わず名前が刻まれていることに、「二度と戦争を起こしてはいけない」という強い思いが込められているように感じた。

平和記念資料館では、沖縄戦の経過や当時の状況について詳しく学んだ。特に住民を巻き込んだ地上戦の悲惨さや、集団自決、食糧不足など、戦争が人々に与える苦しみの大きさを改めて知った。

展示を見ながら、自分が今こうして平和な生活を送れていることは決して当たり前ではないと感じた。戦争を経験していない世代だからこそ、過去の歴史を学び続け、同じ過ちを繰り返さないようにしていく責任があると思った。

午後からは三単学習会へ参加した。

今回の沖縄平和行進を通して、自分自身の平和に対する考え方も大きく変わった。これまで戦争や基地問題についてどこか遠い存在のように感じていたが、実際に沖縄へ行き、現地の人々の声を聞き、戦跡を見学したことで、決して他人事ではないと感じた。

そして、平和は誰かが守ってくれるものではなく、一人ひとりが考え、学び、行動し、語り継いでいくことで守られていくものだと言った。戦争の悲惨さや平和の大切さを、自分たち若い世代がしっかり受け止め、次の世代へ伝えていかなければならないと思う。

今回学んだことや感じたことを、今後の組合活動や日常生活の中でも活かしていきたい。また、周囲の人にも沖縄で学んだことを伝え、平和について考えるきっかけを広げていきたいと思う。

今回の沖縄平和行進への参加は、自分にとって非常に貴重で大きな経験となった。これからも平和について学び続け、自分にできることを考えながら行動していきたい。